

高等学校 令和8年度（2学年用）教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科：数学 科目：数学Ⅱ 単位数：4 単位
 対象学年組：第2学年 1組～6組
 教科担当者：（1,2組：太田・村越・臼杵 3,4組：太田・小久保・臼杵 6組：太田・小久保・臼杵）
 使用教科書：（数研出版 新編数学Ⅱ）
 科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 式と計算	4	多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。	○3次式の展開の公式を利用することができる。 ・例1～2、練習1,3 ○3次式の因数分解の公式を利用することができる。 ・例3、練習4 ○式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ・例題1、練習5	○数学Ⅰで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。 ・p.8	○因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ・p.10
			○ $(a+b)^n$ の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解する。 ・練習6～7 ○二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ・例4、例題2、練習8～9 ○二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 ・応用例題1、練習11	○二項定理をパスカルの三角形と結びつけて考えることができる。 ・p.11～13 ○二項定理を等式の証明に活用することができる。 ・例5、練習10	○ $(a+b+c)^n$ を展開したときの $a^p b^q c^r$ の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ・p.15 研究
			○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ・例題3、練習12 ○割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 ・例6、例題4、練習13～14	○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ・例6、例題4、練習13～14	○多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。 ・p.16
	4	○分数式の約分、四則計算ができる。 ・例7～9、例題5、練習15～18 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 ・例8～9、例題5、練習16～18	○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ・p.19～21	○通分をすることで、約分できる形に適切に式変形をしようとする態度がある。 ・例題5、練習18	
	5	○恒等式と方程式の違いを理解している。 ・例10、練習19 ○恒等式となるように、係数を決定することができる。 ・例題6、練習20 ○分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ・応用例題2、練習21	○恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 ・p.22～23	○恒等式の性質を理解し、具体的な問題に取り組もうとする。 ・p.22～23	
6	○恒等式 $A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ・例題7、練習22 ○ $A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 ・例題8、練習23 ○比例式 $=k$ において処理することができる。 ・応用例題3、練習26	○与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ・例題8、練習23～24 ○比例式から分数式の値を求めることができる。 ・例11、練習25	○比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ・p.27		
第2節 等式・不等式の証明		数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 ・例12 ○平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ・例題11、練習31 ○絶対値の性質を利用して、絶対値を含む不等式を証明することができる。 ・応用例題5、練習32 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ・例題12、練習33	○不等式 $A>B$ を証明するとき、 $A-B>0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。 ・例題9、応用例題4、練習27～28 ○不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 ・例13、例題10、練習29～30 ○不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。 ・p.30～34 ○同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。 ・例題11、練習31	○不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。 ・応用例題5、練習32

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 複素数と2次方程式の解	6	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	○複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ・例1. 例題1. 練習1~2 ○複素数の四則計算ができる。 ・例2~3.5. 練習3~4.6 ○共役な複素数を求めることができる。 ・例4. 練習5 ○負の数の平方根を理解している。 ・例6. 練習7 ○負の数の平方根を含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 ・例7. 練習8	○複素数の表記を理解し、複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。 ・p.40 ○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ・p.43	○2次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ・p.40
			○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 ・例9. 練習10 ○判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ・例題2~3. 応用例題1. 練習11~13	○判別式 D の代わりに $\frac{D}{4}$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。 ・例題2~3. 応用例題1. 練習11~13	○2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ・例8~9. 練習9~10
			○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ・例10. 例題4~5. 練習14~16 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ・例題4. 練習15 ○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ・例題6. 練習17 ○2数を解とする2次方程式を作ることができる。 ・例11. 練習18	○与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。 ・例11. 練習18 ○異なる2つの実数 α, β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ・p.52~53 研究 ○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 ・p.52~53 研究	○2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ・例題6. 練習17
			補充問題(1) コラム		○2次方程式の解の符号を2次関数のグラフで考察することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ・p.54 コラム
第2節 高次方程式	7	剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ・応用例題2. 練習21 ○ $P(k)=0$ である k の値の見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 ・例14. 練習23	○多項式を1次式で割ったときの余りに関して、剰余の定理で考察することができる。 ・例12. 例題7. 練習19~20 ○多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。 ・p.57. 例13. 練習22	○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ・p.58 研究
			○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ・例題8~10. 練習24~27 ○高次方程式の2重解、3重解の意味を理解している。 ・p.61 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 ・応用例題3. 練習28 ○高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもつと、 $a-bi$ を解にもつことを利用できる。 ・小項目C	○高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 ・例題8~10. 練習24~27 ○高次方程式が解 α をもつことを、式を用いて表現できる。 ・応用例題3. 練習28	○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・p.59
			補充問題(1) コラム		○1の3乗根 ω の性質に興味・関心をもち、問題に取り組もうとする。 ・p.63 コラム
章末問題(2)					

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 点と直線	7	座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ・例1~2. 練習1~3 ○線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算しようとする。 ・例2. 練習3	○線分の内分点、外分点の公式を統一して捉えようとする。 ・p.69~70	○数直線上の点について調べようとする。 ・p.68~70
			○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ・例3. 練習6 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ・例4. 練習7 ○三角形の重心の座標の公式を理解している。 ・練習8	○図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ・p.75 研究	○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法の高さを知ろうとする。 ・p.75 研究
			○ x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。 ・p.78 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ・例6~7. 練習10~11	○直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 ・小項目A	○ x 切片と y 切片が与えられた直線の方程式について、一般に成り立つ性質を考察しようとする。 ・練習12
			○2直線の平行・垂直条件を理解して	○図形的条件(線対称など)を式で表	○ある点を通り与えられた直線に平
4.2直線の関係(3)					

			いて、それを利用できる。 ・例題 2. 練習 14~15 ○図形 $F(x,y) = 0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t) = 0$ として処理できる。 ・応用例題 1. 練習 16 ○点と直線の距離の公式を理解して、それを利用することができる。 ・例 9. 練習 17 ○ $kF(x,y) + G(x,y) = 0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ・p.84 研究	現できる。 ・応用例題 1. 練習 16 ○直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・応用例題 1. 練習 16	行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ・p.80 脚注 ○2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・p.84 研究	
	補充問題 (1) コラム			○点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ・補充問題 3	○垂心について、直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。 ・p.85 コラム	
第 2 節	5. 円の方程式 (2)	9	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ・例 10~11. 練習 18~20 ○ x, y の 2 次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ・例 12. 練習 21 ○図形 $F(x,y) = 0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t) = 0$ として処理できる。 ・例題 3. 練習 22 ○3 点を通る円の方程式を求めることができる。 ・例題 3. 練習 22	○円の方程式が x, y の 2 次方程式で表されることを理解している。 ・p.86~87 ○3 点を通る円はこの 3 点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。 ・p.88	○ x, y の 2 次方程式が常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ・小項目 B
	6. 円と直線 (2)			○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・例題 4. 練習 23 ○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ・p.90~91 ○円の接線の公式を理解して、それを利用できる。 ・例 13. 応用例題 2. 練習 26~27 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ・応用例題 2. 練習 27	○円と直線の共有点の個数を、2 次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ・例題 5. 練習 24 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ・例題 6. 練習 25	○円と直線の位置関係を、2 次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ・p.89~91
	7. 2 つの円 (1)			○2 つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ・p.95. 練習 28 ○2 つの円の位置関係と、中心間の距離と半径から、円の方程式を求めることができる。 ・例題 7. 練習 29 ○ $kF(x,y) + G(x,y) = 0$ の形を利用して、円の方程式を求めることができる。	○2 つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ・p.94	○2 つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・p.96 研究

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 三角関数	1. 角の拡張 (2)	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	○一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 ・例1. 練習1~2 ○角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また、弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 ・p.114. 練習4 ○扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ・例2. 練習5	○一般角を動径とともに考察することができる。 ・p.112~113 ○弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。 ・p.114	○弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。 ・p.114. 練習4
	2. 三角関数 (2)		○弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ・例3. 練習6 ○単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。 ・p.117 ○三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。 ・例題1~3. 応用例題1~2. 練習8~12	○三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。 ・p.116	○三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。 ・p.116
	3. 三角関数のグラフ (2)		○いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ・例4~6. 練習13~16	○単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。 ・p.121~123	○ $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味・関心をもつ。 ・p.121 ○周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。 ・p.122
	4. 三角関数の性質 (1)		○三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ・p.127 ○ $\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 ・例7~8. 練習17	○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 ・p.127 ○三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。 ・p.128	○単位円や三角関数のグラフを利用して、三角関数の性質を調べようとする。 ・p.127~128
	5. 三角関数の応用 (2)		○三角関数を含む2次方程式の解き方を理解している。 ・応用例題3. 練習21	○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 ・例9~10. 例題4. 練習18~20.22	○三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ・p.129~131
	補充問題 (1) コラム		○三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・補充問題4	○ $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。 ・補充問題4	○サインカーブが円柱の切り口に現れることに興味・関心をもち、身近な例を調べようとする。 ・p.132 コラム
第2節 加法定理	6. 加法定理 (3)	11 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ・例11~12. 例題5. 練習24~28 ○正接の加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。 ・例題6. 練習29	○角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ・練習25.28 ○正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。 ・p.137	○加法定理の証明について、一般角に対しても成り立つことに興味をもち、考察しようとする。 ・p.133
	7. 加法定理の応用 (3)		○2倍角、半角の公式などを利用して、三角関数の値を求めたり、等式を証明したりすることができる。 ・例13~14. 練習30~33 ○2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ・応用例題4. 練習34 ○三角関数の合成について理解している。 ・例15. 練習35	○2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。 ・応用例題4. 練習34 ○xの関数 $y = a \sin x + b \cos x$ の式を適切に変形することで、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・例題7. 練習36 ○合成後の変数のとる値の範囲に注意して、 $a \sin x + b \cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。 ・応用例題5. 練習37	○同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。 ・p.142
	補充問題 (1) コラム				○加法定理を利用して、座標平面上の点の回転を考察することに関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・補充問題5 ○三角関数と複素数の表示(極形式)との関係に興味を示し、3倍角の公式などを導こうとする。

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 指数関数	12	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ・例1. 練習1～2 ○累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 ・例4. 練習5 ○指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 また、累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができる。 ・例5～6. 例題1. 練習6～7 ○指数が無理数の場合の累乗根の意味を理解することができる。 ・p.155 	<ul style="list-style-type: none"> ○指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ・p.150～p.155 ○累乗根をグラフによって考察することができる。 ・p.152 	<ul style="list-style-type: none"> ○累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。 ・p.158 ○負の数のn乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ・p.155 研究
			<ul style="list-style-type: none"> ○指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 ・p.157. 練習9 ○底と1の大小に注意して、指数関数を含む不等式を解くことができる。 ・例題4. 練習12 	<ul style="list-style-type: none"> ○指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。 ・p.157. 練習9 ○指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。 ・例題2～4. 練習10～12 	<ul style="list-style-type: none"> ○指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。 ・p.156～157
			<ul style="list-style-type: none"> ○x軸方向、y軸方向に平行移動した指数関数のグラフをかきことができる。 ・補充問題3 ○$a^x > 0$ に注意して、おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。 ・補充問題5 		<ul style="list-style-type: none"> ○2の3乗根を小数で表すことに興味を示し、実際に取り組もうとする。 ・p.160 コラム
第2節 対数関数	1	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ・例8. 練習13～14 ○対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ・例9. 練習15 ○対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ・例10. 練習17 ○底の変換公式を等式として利用できる。 ・例11. 練習18 	<ul style="list-style-type: none"> ○対数 $\log_a M$ が $M = a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 ・例7～9. 練習13～15 ○指数法則から、対数の性質を考察することができる。 ・p.163～164 	<ul style="list-style-type: none"> ○指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 ・p.161
			<ul style="list-style-type: none"> ○対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 ・p.166. 練習19 ○底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 ・例題6. 練習21 ○対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 ・応用例題1～2. 練習22～23 	<ul style="list-style-type: none"> ○対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ・p.165 ○対数関数 $y = \log_a x$ のグラフが定点(1, 0)を通ることを理解している。 ・p.166. 練習19 ○対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ・例題5～6. 練習20～21 	<ul style="list-style-type: none"> ○やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。 ・応用例題1～2. 練習22～23
			<ul style="list-style-type: none"> ○正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。 ・例12. 練習24 ○常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 ・例12. 練習24 ○常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 ・例題7～8. 応用例題3. 練習25～27 	<ul style="list-style-type: none"> ○n桁の数、小数首位第n位の数を、不等式で表現することができる。 ・p.170～172 	<ul style="list-style-type: none"> ○桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ・p.170～172
補充問題(1) コラム		<ul style="list-style-type: none"> ○x軸方向に平行移動した対数関数のグラフをかきことができる。 ・補充問題7 		<ul style="list-style-type: none"> ○現実世界の問題を、常用対数を用いて考察しようとする。 ・p.178 コラム 	

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 微分係数と導関数	2	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の h は0でないことを理解している。 ・小項目 B, C ○平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ・例 1.3. 練習 1.3 ○微分係数の図形的意味を理解している。 ・小項目 D	○平均変化率における x の変化量 h は負でもよいことを理解している。 ・小項目 B	○接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。 ・小項目 D
			○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 ・例 5. 練習 6 ○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ・例 6. 例題 1. 練習 8~9 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ・例題 2. 練習 10 ○変数が x , y 以外の関数について、導関数が求められる。 ・例 7. 練習 11~12	○導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。 ・小項目 A~C	○関数 x^n の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。 ・p.187 研究
			○接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 ・例題 3. 練習 13 ○接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ・例題 3. 練習 13 ○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ・応用例題 1. 練習 14	○定点 C から曲線に接線を引くとき、接点 A における接線が点 C を通ると読み替えることができる。 ・応用例題 1. 練習 14	○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。 ・応用例題 1. 練習 14
			○微分係数の値などから関数を決定することができる。 ・補充問題 2		○平均の速さと瞬間の速さに興味をもち、平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。 ・p.190 コラム
第2節 関数の値の変化	3	導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。	○導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 ・例 8. 練習 15 ○関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ・p.192~194 ○導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ・例題 4. 応用例題 2. 練習 16. 18 ○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ・応用例題 2. 練習 18	○接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。 ・p.191~192 ○ $f'(a) = 0$ は、 $f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ・応用例題 2. 練習 18	○関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ・例題 4. 練習 16 ○関数の増減や極値を調べ、4次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ・p.196 研究
			○導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・例題 5. 練習 19 ○最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意して解くことができる。 ・応用例題 3. 練習 20 ○導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ・例題 6. 応用例題 4. 練習 21~22 ○不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。 ・応用例題 4. 練習 22	○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ・p.197 ○方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ・例題 6. 練習 21 ○不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。 ・応用例題 4. 練習 22	○身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 ・応用例題 3. 練習 20 ○方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ・例題 6. 応用例題 4. 練習 21~22
					○3次関数の対称性について、対称の中心となる点(変曲点)について考察しようとする。 ・p.201 コラム
第3節 積分法	3	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさず示すことができる。 ・p.203~205 ○不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ・例 13~14. 練習 25~26 ○与えられた条件を満たす関数を、	○微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ・p.203	○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ・p.203